

ダイコン黒芯症の発生生態と防除対策

病原菌を解明、防除体系を確立

研究開発の背景

- ◇和歌山市の秋冬ダイコンは、10aあたり収量が全国トップクラス。肌がきれいで肉質が柔らかいことから市場で高い評価。
- ◇平成21年頃よりダイコンの根内部が黒変する「黒芯症（こくしんしょう）」が発生して、問題化。外観から内部の黒変がわからない場合もあり、消費者まで流通すれば産地の信頼を損なう恐れ。
- ◇産地からは原因の究明と、防除対策の確立が求められていた。

研究成果の内容

適切な品種選定と薬剤防除で病害撲滅

○原因と特徴

和歌山市のダイコン黒芯症は黒斑細菌病菌または斑点細菌病菌によるものであることを確認した。いずれの病原菌も主として葉に病斑を形成するので、葉の病徴から病原菌を判別できる。



黒斑細菌病菌による葉の病斑と黒芯症

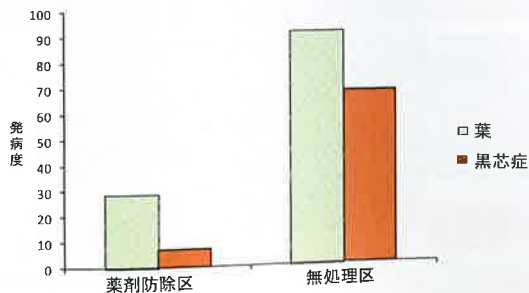
斑点細菌病菌による葉の病斑と黒芯症

○感染経路

黒芯症は、病原菌がダイコンの葉柄基部から根内部に侵入することによって起こる。

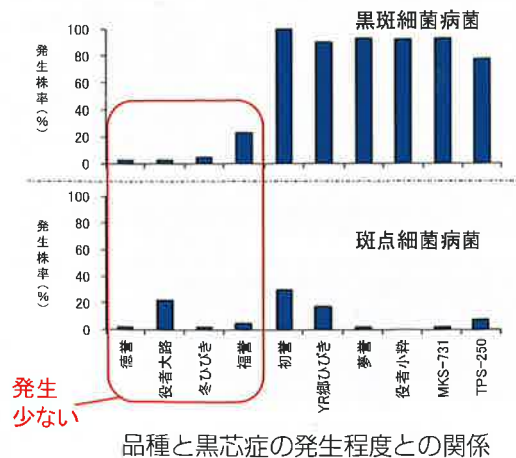
○防除対策

黒芯症が発生しにくい品種（「徳誉」「役者大路」など）を選定した。防除薬剤の効果を明らかにした。



黒斑細菌病（葉の発病および黒芯症）に対する薬剤の防除効果

薬剤防除区：病原菌接種の1日前にカセット水和剤、6日後および13日後に銅ペースト水和剤を散布



発生少ない

品種と黒芯症の発生程度との関係

産地の状況

本研究で選定した品種や防除薬剤が産地で導入されている。

期待される効果

☆黒芯症に関する知識の普及により、産地で適切な品種選定と薬剤防除が行われることで、黒芯症の被害が軽減。ブランド力の強化、農家所得の向上に寄与。